

カトリック

広島教区報

No. 135

カトリック
広島司教区

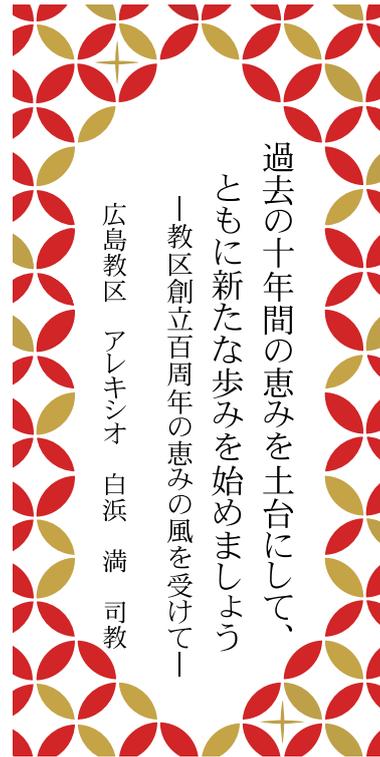
発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区の動き・教区ひろば・淳心会日本宣教75周年
J-CaRM・殉巡ネット
地区便り・海峡からの風
青少年・ひと粒

1〜5面
5〜8面
9面
10〜11面
12面



過去の十年間の恵みを土台にして、
ともに新たな歩みを始めましょう

― 教区創立百周年の恵みの風を受けて ―

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

主の降誕と新年を迎え、
神様からの豊かな恵みを、
皆様の上にお祈りいたします。



はじめに

旧年中に、教区の皆様から
いただいたお祈りとご厚

情に対し、心から感謝申し上げます。
世界情勢が依然として不安定な中、物価が高騰し、
経済的な厳しさも増し、日常生活への影響も少なくありません。
新型コロナウイルス感染症の影響が収束に向かい、



白浜 満 司教
司牧訪問時の待降節黙想会
翠町教会

以前のよう
な生活が戻りつつあり
ますが、今年こそ長引く戦争に終止符が打たれ、まことの平和へと向かう明るい兆しが広

がって行きますように、
神の母聖マリアの取り次ぎを願います。

広島教区においては、

2023年度に「教区創立百周年」を祝う諸行事を無事に終え、神様から多くの恵みをいただきました。また、この2023年度は、前教区長の前田万葉司教（現大阪高松大司教区の大司教・枢機卿）時代に、教区創立90周年を祝った2013年度からの「チャレンジ 新しい福音宣教」わたしをお使いください」という10年間の長期目標に基づく宣教司牧活動の歩みを締めくくる1年でもありました。家庭・教会・社会という3つの次元に目を向けながら、チャレンジ精神をもって自分たちでできることに取り組んでくださった教区民の皆様により感謝申し上げます。



「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

今年の開校記念日のミサの中で、林神父様は、萩光塩学院が刻んできた七十二本の年輪について話されました。同じ数の年輪を刻んできた私にとつて、感慨深い話でした。聖母幼稚園以来広島学院時代まで鞆町教会で育ち、大学時代は先頃帰天されたプロット神父様と共にサビエルセンターで過ごした日々について振り返る良い機会となりました。現在、萩光塩学院で働いています。この学校に奉職するきっかけを作ってくくださったのもプロット神父様です。宗教の時間だけでなく、宗教的行事やボランティア活動を通して輝いている生徒たちの姿にいつも

感動し、喜びを感じながら働かせてもらっています。信者の子どもはほとんどいませんが、卒業時に多くの生徒が「光塩に来てミサを経験したことが一番良かった。」と言ってくれることもうれしいことの一つです。カトリック学校の使命は、カトリックの教えの種をまくことだと思っています。いつかきつとこの種が芽を出し、大きく成長して豊かに実ることを願っています。

なんとって、出身は広島じゃけえのう。
がんばらんにゃあいけんで！
（萩光塩学院
生利 工次）

世界代表司教会議（世界シノドス）の第1会期を受けて

2021年10月から教区レベル、2022年に大陸レベルでその準備が続けられてきた世界シノドス第16回通常総会の第1会期が、

2023年10月4日～29日にバチカンで開催されました。今年10月にも第2会期が開催される予定です。この第1会期を受けて『神の民への手紙』（2023年10月25日）とともに、まとめの報告書が公表されました（シノドス2021-2024のウェブサイト…www.synod.va）。そして『2024年10月に向けて』（2023年12月11日）という文書が、教皇庁シノドス事務局から出され、「今後、シノドス総会第2会期（2024年10月）までの数カ月間に取るべき手順」が示されています。この指示に基づいて、教区においても対応（参加）が求められています。

①まとめの報告書の内容への対応について

『2024年10月に向け

て』という文書の中で、世界シノドス総会の第1会期で提案された事柄について、2つの次元での対応（取り扱い）の方向性が、次のように示されています。

◇全教会レベルで

「第1会期中、総会は、大きな関連性を持つことがらをシノドスの方法で取り上げ、収めざる事柄を指摘し、取り組むべき課題を示し、提案をまとめました。これは非常に大きな問題であり、そのいくつかは全教会レベルで、ローマ教皇庁の諸省と協力しながら検討される必要があります。…これらのテーマの一覧表は、シノドス総会の成果として教皇に提出されます。シノドス事務局によつて整理された、全大陸から選出された専門家グループは、教皇庁の各省とともに、教皇によつて指示されたテーマについて、シノドスの方法で作業するよう要請されていきます。その作業の進捗に関する報告は、2024年10月の第2会期で発表される予定です

す。」

◇地方教会レベルで

地方教会（教区）レベルでの対応について、『2024年10月に向けて』という文書は、次のように指示しています。「地方教会（とその集合体）は、まずシノドスのテーマの根幹をなす『まとめ』報告書の諸要素を深めることによつて貢献するよう求められます。これらの貢献は、次の質問によつて導かれます。『どのようにならばわたしたちは、宣教においてシノドスの教会になりうるか』—この新たな考察の目的は、復活した主とその福音を現代世界にのべ伝えるという一つの使命の中で、洗礼を受けた一人ひとりと各教会の独自の貢献を發展するために、わたしたちがそれぞれの状況や文脈の中でたどることのできる道筋と、採用することのできる手段を明らかにすることです。したがって、これは…、わたしたちが呼ばれている宣教への専心の具体的な形、すなわちシノドスの教会にふさわしい、

一致と多様性の間のダイナミズムを表現するものについて考察するようにとの呼びかけです。」

そのために、今後、地方教会（教区）のレベルで、わたしたちは、『まとめ』報告書全体を参照しながら、「宣教に関して、どのような関わり方、組織、識別のプロセス、意思決定が、共同責任を認識し、形作り、促進することを可能にする」のか、また「この共同責任をよりよく表現するために、どの奉仕職や参加型組織を新たにし、導入することができる」のかという問いかけに答えて行く必要があります。そして「…この目的のために、各地方教会もまた、『まとめ』報告書全体に目を通し、自分たちの状況にもつ

とも合致する要望を集めることが求められています。」また地方教会（教区）は、「…宣教に向かうシノドスのダイナミズムを成長させるために重要であると思われる優れた実践を分ち合いつつ、実施された活動や体験についての簡潔な証言（2ページ以内）を司教協議会に送付し、司教協議会はこれらを、2024年5月15日までに、教皇庁シノドス事務局に送付しなければなりません



世界平和記念聖堂（幟町教会）のクリスマスの馬小屋
制作：ベトナム人グループ

ん。

この教皇庁シノドス事務局からの要請に応えるために、わたしは2023年12月9日に開催された教区宣教司牧評議会において、次のような意図の「宣教ひろば」の開催を提案し、参加者の同意を得ることができました。

②「宣教ひろば」の実施について

教区において過去10年間、「チャレンジ 新しい福音宣教」わたしをお使いください」という宣教司牧目標を掲げて活動してきたわたしたちは、さらに宣教の意識を高めて行くことが必要です。これからの日本の教会は、初代教会の使徒たちの時代、そしてキリスト教禁令の高札が撤去（1873年・明治6年）されて、日本の社会が信教の自由を得た後の再宣教時代を思い起しながら、宣教活動に取り組むことが急務です。

広島教区が開催した「2020教区シノドス」において、福音宣教、平和、協働、多文化共生、養

成という、5つの分科会からなされた提言が「10のテーマ、30のチャレンジ」として要約されています。

同時に、それらを推進し具体化していくため、ZOOMあるいは対面などの方法を通して、自由に参加できる5つ（宣教、平和、多文化共生、協働、養成）の「ネットひろば」の実施も提案されていました。「ひろば」という言葉は、だれでもそこに集まることができる参加型の組織を意味するものです。

その一つに「宣教ひろば」もありますが、まだ実施されていない状況です。そのため、昨年12月9日に開催された教区宣教司牧評議会において、宣教の現状について分ち合い、宣教のあり方をもとに考える教区レベルの「宣教ひろば」の実施を提案させていただきました。また同時に、その準備段階として、各小教区レベルで主任司祭を中心にして、少なくとも年に1〜2回、宣教の現状を振り返り、分かち合い、今後の宣教を考えて行く小教区レ

ベルの「宣教ひろば」の開催を提案させていただきました。

「宣教ひろば」は、表現を替えれば「宣教推進懇談会」のようなものということができるかもしれない。日本における福音宣教は非常に難しい課題であり、収穫が少ない状況であることは、日本の教会の教勢を見ると明らかです。しかし聖霊の導きに信頼しながら、「2020教区シノドス」において提案されていた「宣教ひろば」を通して、現状を振り返り、分かち合うことから始めて行きたいと考えています。これから、「平和の使徒推進本部」内にあるシノドス対応調整チームに依頼して、小教区レベルの「宣教ひろば」（宣教推進懇談会）の開催を呼びかけ、教区レベルの「宣教ひろば」の開催を企画する準備を進めて行きたいと思っています。

この小教区、また教区レベルの「宣教ひろば」の実施は、教皇庁シノドス事務局から公布された『2024年10月に向け

て』という文書の中で、地方教会（教区）に発せられた「どのようになればわたしたちは、宣教においてシノドスの教会（ともに歩む教会）になりうるか」という問いかけに答えるための小教区そして教区レベルの活動（体験）です。具体的には次の2つの質問が投げかけられています。

①「宣教に関して、どのような関わり方、組織、識別のプロセス、意思決定が、共同責任を認識し、形作り、促進することを可能にする」のか。

②「この共同責任をよりよく表現するために、どの奉仕職や参加型組織を新たにし、導入することができ」のか。

日本の司教協議会が教皇庁シノドス事務局に今年5月15日までに報告書を作成するため、各教区においては、それ以前に教区レベルのまとめを提出する必要があります。約4カ月の短い期間しかありませんが、広島教区としては、先に提案した小教区そして教区レベ

ルの「宣教ひろば」の実施を呼びかけたいと思えます。

教区宣教司牧評議会
（2023年12月9日）を受けて

後3か月をもって、2024年度を迎え、「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」という新たな10年間の長期目標に基づく活動が始まることとなります。その準備のために、昨年12月9日に開催された教区宣教司牧評議会で合意されたいくつかの事項を確認し、教区民の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

①「宣教ひろば」の実施

世界シノドス総会の第1会期との関連で、昨年12月9日の教区宣教司牧評議会の中で評議された「宣教ひろば」について、先に言及させていただきました。

②2024年度以降の長期・中期の宣教司牧目標の小教区における掲示

第3回「教区代表者会議」（「2020教区シノドス」）での分かち合いを

経て、2024年度から2033年度までの教区の長期・中期の宣教司牧目標が、以下のように設定されました。これについては、2022年の復活祭に公布された司教教書(要約版)のリーフレットを参照していただければ幸いです。

長期目標

2024年度〜

2033年度

「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」

中期目標

2024年度〜

2026年度

「あたたかさの源泉に立ち帰る」

(典礼活動)

2027年度〜

2029年度

「あたたかさを育む共同体をつくる」

(司牧活動)

2030年度〜

2033年度

「あたたかさを広げる教会を築く」

(宣教活動)

ただし、1年ごとのサブテーマは教区全体として設

定せず、事情が異なるそれぞれの小教区で必要に応じて検討していただく方針を申し合わせています。さらに、各小教区におかれましては、それぞれに可能なふさわしい方法で、長期・中期の宣教司牧目標の掲示をお願いしたいと思います。なお、教区としても、一案として垂れ幕などの製作を検討し、アンケートを実施して注文をしていただく方法でサポートしていきたいと考えています。

上記の長期・中期の宣教司牧目標は、2021年から2024年開催の世界代表司教会議(世界シノドス)第16回通常総会の「ともに歩む教会のために」交わり、参加、そして宣教

「1」 「交わり」とは、キリストと聖霊の働きを通して行われる神との交わりである典礼活動を源泉としてわたしたち相互の交わりへと発展して行くことを目指しています。

(2) 「参加」は、神からの恵みに促されて、共同体のメンバーが自分のできることを意識し、共同体の使命のために自分を役立てることを意味しています。

(3) 命は、つねに宣教することへ向かっているのです。世界シノドス第16回通常総会のメインテーマと「2020教区シノドス」で打ち出された教区における宣教司牧の長期・中期目標は、喩えを用いれば、飛行機の両翼のようなものと理解することが出来ます。ただ、これらの目標は、時間的に積み重ねられていくようなものではなく、たえず3つの次元が同時進行していくようなつながりを持つていくことに留意したいと思えます。

これからの世界のカトリック教会は、「ともに歩む(シノドス的)教会」をめざすことが中心的なテーマとなつていきます。その際に、広島教区としては、神からの恵みから湧き出る

「あたたかさ」(「神の愛といつくしみ)を心臓の鼓動とし、あらゆる宣教司牧活動に伝播して行き、その神の「あたたかさ」へ多くの人々を招くように努めて行きたいと思えます。

③ 「カリタス広島」の発足について

発足の準備がなされていた「カリタス広島」の規約案が承認され、2024年度から、その活動を開始して行くこととなります。4月20日(土)に発足式とミサが予定されています。

「カリタス広島」は、日本カトリック司教協議会の「カリタスジャパン」と連携する教区の窓口、教区内のボランティア活動グループの集約(ハブ)の役割を果たす組織となることを目指しています。このことは、「2020教区シノドス」の提言内容の要約である「10のテーマと30のチャレンジ」の「協働」分野で、20番の「カリタス広島」の構築による地域社会への奉仕」という提言を実現するためのものです。

④ 「きょうどう推進チー

ム」の廃止について

「2010年広島教区代表者会議」を受けて改定されたガイドライン『平和の使徒になあれ!』(平和の使徒推進本部編)に提示された方針として、3つの柱(平和、きょうどう、養成)への取り組みを推進するため、4つのチーム(平和、きょうどう、養成、多文化共生)を、教区レベル、地区・ブロック(共同体)レベル、小教区レベルで設置し、活動するよう要請していただきました。約20年に及ぶこれら4つのチームの活動状況について、2023年の10月末に行われた広島教区の司祭研修会において、各地区からの報告をお願いしました。その結果、現状として、きょうどう推進チームの活動があまりなされておらず、空洞化していることが明らかになりました。そして、チームとして維持する必要はないという意見が、司祭団の大勢を占めました。また、11月8日に開催された教区司祭評議会においても、きょうどう推進チーム

教 区 の 動 き

2023年度(第二回)

広島司教区宣教司牧評議会開催

2023年12月9日(土)、2023年度第2回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)がリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の27人が出席した。会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の19人が集い、その他8人はリモート接続して予定通り会議を開始した。

続いて、教区の4つの優先課題「召命促進」「教区共通力テキスト作成」「津和野の証し人列聖」「青少年育成」に関して、各委員会から主に今年度の活動状況についての報告があった。

召命促進委員会からは召命学校10代クラスの現状報告と召命合同祈りの集いの報告、教区共通力テキスト作成委員会からは今年5月の百年史発行に合わせた時期に共通力テキストを発行したいとのこと、津和野の証し人列聖委員会からは申請書を準備中で英訳作業も必要な状況から教皇庁列聖省への提出までまだ数年かかる見込みとのこと、青少

の前述の「正義と平和推進デスク」につながる組織とする。

この再編成も「2020教区シノドス」の提言内容の要約である「10のテーマと30のチャレンジ」の「協働」分野で、17番の「小教区、地区、教区の各組織の見える化(簡素化)」と、情報伝達網の改善」という提言に対応するためのものです。

各地区や小教区においても、上記の体制への移行をお願いしたいと思います。

もし不都合などが生じる場合には、平和の使徒推進本部内の「正義と平和推進デスク」の方へご連絡をお願いいたします。

2024年度からの新たな歩みに向けて、世界シノドスと教区シノドスの提言に定める準備を、教区民の皆さん、どうぞよろしくお願いします。

後、平和活動を連携して取り組むために、組織の再編成が話し合わせられ、その案も提出されていきました。そして、10月末に行われた司祭研修会において、平和活動懇談会から出された提案に対する司祭団からの反対意見はなく、11月8日に開催された教区司祭評議会においても同様でした。これを経て、12月9日の教区宣教司牧評議会においても、平和活動懇談会から出された再編成案について、評議会をお願いしました。

そして、2024年度以降、以下のように再編成することを申し合わせました。

平和の使徒推進本部内の「社会司牧デスク」を「正義と平和推進デスク」に名称を変更し、日本カトリック司教協議会の「正義と平和協議会」と「部落差別人権委員会」に対応する教区の窓口とする。また、各地区にある「平和推進チーム」の名称を、「正義と平和推進チーム」に変更して、平和の使徒推進本部内

を廃止することに賛同する意見が多数でした。そのため12月9日の教区宣教司牧評議会において上記の報告を行って評議会をお願いし、同意が示されたため、正式に「きょうどう推進チーム」の廃止を決定しました。もし同チームが十分に機能していない状況でしたら、各地区や小教区において廃止の対応をお願いしたいと思います。しかし、以前の教区シノドスで打ち出された「きょうどう」(共同、協同、協働)の精神は、教皇フランシスコが打ち出している「ともに歩む」(シノドス的な)教会を築いて行くために重要な理念として活かされて行くべきことを、わたしたちは再確認したいと思います。

⑤「平和推進チーム」の名称変更について

教区・地区(協働体)レベルの平和活動にかかわる「正義と平和広島協議会」、平和の使徒推進本部内の「社会司牧デスク」、地区レベルの「平和推進チーム」による平和活動懇談会が3回ほど行われ、今

年育成委員会からは、鍊成会の報告と今後の課題、青年活動企画室からの報告としてチューブプロの現状、ワールドユースデー関連の報告があった。報告の後、平和の使徒推進本部から今まで4つの優先課題について本教区宣司評で報告してもらっていたが、司教教書30のチャレンジ「教区組織の見える化」のため、この4つの優先課題に限定した報告は今回で発展的に終了し、教区内にある各委員会、担当部門等から現状や課題などを報告してもらいたいとの提案があり、特に異議なかったため今後については平和の使徒推進本部で報告方法を検討すること。

父から規約(案)の説明があり、質疑応答と一部修正することの同意を得た後、白浜司教の承認により、同日、本規約を施行することになった。2024年度からの新たな活動に期待したい。

次の議題は、教区と地区の組織の見直し(一部変更)について、白浜司教から次の提案が出され、意見交換、決議が行われた。

(1)各地区や小教区の「きょうどう推進チーム」を廃止してよいか。

▼三地区とも実際の活動がない状態であるため廃止することに異論なし。

★提案通り「きょうどう推進チーム」を廃止する。

報告事項の最後は昨年11月23日に行われた「教区ひろば」の報告があった。

(「教区ひろば」の報告は7頁を参照)

議題については、次の議案に関する説明と出席評議員による決議が行われた。

議題は、まず「カリタス広島」発足に向けて規約の施行について、担当の久保神

★提案通り「平和に関する活動の組織再編」を了解した。具体的には平和の使徒推進本部内の「社会司牧デスク」を「正義と平和推進デスク」に名称変更し、日本カトリック司教協議会の「正義と平和協議



平和の使徒となろう

平和の使徒推進本部

▼定期的に福音宣教の現状について分かち合い宣教のあり方を考えるために提案するもの。

★提案通り了解した。

続く議題は、2024年度からの宣教司牧目標「ともに歩むあたたかさのある教会」について、白浜司教から次の提案が出され、意見交換、決議が行われた。

(1)1年ごとの宣教司牧目標(サブテーマ)の設定は、教区全体では行わず、各小教区の状況に合わせて必要であれば小教区の判断で行うことを了解するか。

★提案通り了解した。

(2)10年間の長期目標と3年ごとの中間目標の垂れ幕を製作することに賛成か。

★テーマを掲げることが実施する。掲げる方法においては課題もあり、各小教区の要望を聞きながら平和の使徒推進本部で検討する。

(3)3年間(2024年~2026年)の活動計画について

▼現時点の案は、フランス

できるので良い。

「社会司牧デスク」を「正義と平和推進デスク」に名称変更し、日本カトリック司教協議会の「正義と平和協議

会」と「部落差別人権委員会」に対する教区の窓口にする。

(3)小教区レベルの「宣教ひろば」(宣教推進懇談会)の実施の呼びかけ、教区レベルの「宣教ひろば」の企画開催を了解するか。

語の「典礼の実践的な事典」の翻訳を完成し出版して配布したい。

広島地区で開始されている「10週間の祈りの旅」の企画を支援したい。

★提案に対して特に異論なし。

教区宣司評の後半は、各地区・協働体・修道女連盟、平和の使徒推進本部社会司牧デスクからの報告があった。

また、白浜司教から、昨年8月9日に米国(サンタフェとシアトル)と日本(長崎と広島)の司教たちで「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」を結んだことの教区民への説明の機会を設けて欲しいとの要望があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに3時間の教区宣司評を閉会した。

なお、次回(2024年度第一回)教区宣司評は、6月8日に開催予定。

定期的な福音宣教の現状について分かち合い宣教のあり方を考えるために提案するもの。

★提案通り了解した。

続く議題は、2024年度からの宣教司牧目標「ともに歩むあたたかさのある教会」について、白浜司教から次の提案が出され、意見交換、決議が行われた。

(1)1年ごとの宣教司牧目標(サブテーマ)の設定は、教区全体では行わず、各小教区の状況に合わせて必要であれば小教区の判断で行うことを了解するか。

★提案通り了解した。

(2)10年間の長期目標と3年ごとの中間目標の垂れ幕を製作することに賛成か。

★テーマを掲げることが実施する。掲げる方法においては課題もあり、各小教区の要望を聞きながら平和の使徒推進本部で検討する。

(3)3年間(2024年~2026年)の活動計画について

▼現時点の案は、フランス



「教区ひろば」

開催

テーマ「わたしの
召命とあかし」に
基づく分かち合い

近年の地球温暖化の影響で秋が短く感じられる中、2023年秋11月23日（木・祝）の昼下がり、世界平和記念聖堂で平和の使徒推進本部主催の「教区ひろば」が行われた。

教区ひろばは、2022年復活祭に発布された司教教書の「提言推進のための教区組織」で示された『次回「教区シノドス」までの適切な中間期に「ネットひろば」の拡大会議として開かれた（誰でも参加できる）形式』の集いで、今回が第1回目。当日は、2022年・2023年に金銀祝を迎えられた聖職者の方をミサの中でお祝いするためにお招きし、約200名の司祭・修道者・信徒が集って行われた。また同時にオンラインでも配信された。

まず13時から「報告会」が行われた。2013年度の教区創立90周年に打ち出された長期目標の最終年度である2023年度のサブ

を行うための報告会である。はじめに主催者を代表して、瀧井神父の挨拶と祈りからスタートした。

報告会は、3つの地区で選出された方々が準備したことを発表した。

広島地区の報告は、翠町教会の森岡さん「受洗後14年。2つのお恵みに気づいた。要理・黙想を通して洗礼の恵みに感謝していること。教皇の来日に感動し、司祭の招きでカテキスタ養成研修に参加したこと。」続いて福山教会のベトナム人ファン・ティ・リエンさん「2018年に来日。家族と離れていても神さまがいつも近くにいて感じている。日本に来たことでシスターになりたい自分に気づいた。祈りの生活は自分と神さまをつなぐ糸。2024年春、修道会に入会したい。」そして広島平和推進チームの栗栖さん「母が信者で小1に受洗し教会に通ったが大学生の頃から疎遠。2002年に

亡くなった妻のために祈ることをきっかけに再び教会に。平和行事に携わることが教会での居場所になった。恒久平和の実現のために祈り行動したい。」

岡山鳥取地区からは、明神さん「10月の地区宣教司牧評議会でも小教区での取り組み、自分の召命についての分かち合いを行った。『教会に若い人がいない』『教会離れの方を思うと寂しい』『コロナ禍の影響で色々変わった』との思いを共有した。私たちにできることは祈りと分かち合いの場を持ち、それぞれの召命を考え育んでいくこと。」続いて玉野教会の石井さん「教会で4月から4回、それぞれのテーマで『私の召命を考える』分かち合いを開催。互いが分かち合える良い時間になった。」そして青年連合の齊藤さん「10年前、大学入学をきっかけにカトリックに出会い自分の信仰探しの末、2019年に受洗。神の愛を感じ、その愛に応えて生きることが自分の召命。青年連合を通して未来

の自分たちと次の世代のために、互いで話し合いこれからの教会を作りたい。」山口鳥根地区からは、徳山教会の明石さん「信者としての使命は何であるかと考えてみる。父の死をきっかけに受洗。教会学校との関り、モンテッソーリを学ぶ中で神から愛されていることを感じた。これからも子どもたちのために、教会共同体の一人として自分にできることをしていきたい。」最後に高千帆教会の下崎さん「3教会の2025年の統合に向けて新しい宣教拠点を作ることでも召命の延長線上にある。3の教会の地理的現状、統合に対する思いが少しずつ纏まっていること、何ごとにも時があることを実感。統合によってできなかつたことができるようになる期待を願いつつ。」

続いて青年活動企画室から「ワールドユースデー・リスボン大会」について、参加した青年8名が写真を投影しながら報告した。なお要約された報告「ポケット版報告冊子」データを専

用QRコードからダウンロードできる。



「ポケット版報告冊子ダウンロードQRコード」

報告会の締めくくりは平和の使徒推進本部から、2023年10月に最終ステージの第1会期を終えた世界代表司教会議について、全体の流れと会議の内容について、写真や要点を投影しながら説明した。

中間概要としての内容は、「今までの流れ」「第1会期のスケジュール」「今回のシノドスの特徴（丸テーブルでの話し合い、女性・信徒・修道者・司祭が参加し投票、途中でカタコンベ巡礼あり、平和のためのロザリオの祈りあり）」「大陸別総会の最終文書に基づいて起草された討議要項」「テーマについての全体会・分科会での分かち合い」と続き、最後に菊池大司教のビデオメッセージを聞いた。

今回の教区ひろば『報告会』は、「ともに歩むあた

たかさのある教会」のあり方を目指す教区の取り組みのひとつとなる有意義な時間であった。

報告会に続いて、15時ごろから派遣ミサが行われた。ミサ前に、このミサの献金は、今後の福音宣教活動のための寄付として呼びかけられた。

ミサは白浜司教の司式で、4人の金銀祝を迎えられた司祭と共に始まった。

説教で2023年3月に金祝を迎えられたイエズス会の外川直見司祭は「叙階式で祭壇前にひれ伏し聞いた連願の祈りが、波のようだったと振り返りつつ、これからの広島教区が祈りを通して共に歩む共同体になるように」と語った。

共同祈願は、それぞれの意向（世界シノドスのため・金銀祝の方々のため・青年たちのため・それぞれの召命のため）で祈りが行われた。

閉祭の中で金銀祝セレモニーが行われ、2022年と2023年の該当の方でミサに参列された方（2022年・Fr.池尻・Fr.

塩谷・Sr.村上／2023年・Fr.外川・Fr.齊藤・Sr.藤岡・Sr.永嶋・Sr.米谷）の紹介に続いて、白浜司教から記念品とお祝いの言葉「おめでとうと同時に、ありがとうございます。言葉が必要と思いません。神さまが全てをご存じます。天国でもっと大きな喜びがある日まで、『聞くこと』をもっとも大切なこととして、みんなで手を取り合って共に歩んでいきましょう」を頂いた。続いて該当の方々から一人ずつご挨拶を頂いた後、参列者の拍手をもってセレモニーを締めくくった。

ミサは派遣の祝福のことばが告げられ、閉祭の歌と共に17時前に閉祭した。

ミサ後は、広島カトリック会館1階に茶話会会場が準備されており、立ち寄った金銀祝の司祭、修道者と参加者が少しの時間、のどを潤しながら歓談した。

当日の「教区ひろば『報告会』『派遣ミサ』」の映像は、教区公式ホームページからYouTubeで見ることがができる。（平和の使徒推進本部）

淳心会日本宣教75周年

淳心会日本宣教75周年「福音宣教は続く、ミッションは続く」

カシャーノ・バルトロメ（ハート）
淳心会司祭

淳心会は2023年、日本宣教75周年を迎えました。私たちの父なる神と、日本のすべての人々に神の愛を広めることを助けてくださるすべての方々に感謝を申し上げたいと思います。

淳心会（マリアの汚れなき御心修道会）は1862年11月28日にベルギーのブリュッセル郊外のスクートで創立されたが、大阪教区の依頼によって、終戦後の1948年に、日本における福音宣教を開始しました。そして、1951年には、当時の大阪教区から独立して広島使徒座代理区となり（1959年に教区に昇格）、広島教区が管轄している中国5県のうち、岡山と鳥取県の2県の宣教司牧を依頼されて、中国地方に派遣されています。

現在、倉敷、水島、玉島や三原、呉地域で宣教活動をしています。



広島教区は、2023年で教区創立百周年の

記念を行いましたので、振り返ってみますと、実に広島教区の百年の歩みの中で、淳心会は72年という長い期間、広島教区と共に歩ませて頂きました。

1948年以来、淳心会は日本の4つの教区に存在しています。広島、大阪、東京、そして最近では仙台教区にもあります。特に2011年3月11日の東日本大震災の後、淳心会は仙台教区の招きに応え、会員を派遣しました。

皆さま、私たちのミッション（使命）はまだ終わっていません。終わることはありません。愛することを決して止めないのですから。

ですから、この機会をお借りして、広島教区と特に教区の信者の皆様、淳心会宣教師を共同体とそご家族の中に迎えてくださり、私たちの成長のために助けてくださり、すべての人に神の愛を広めることができるよう助けてくださっていることに感謝したいと思います。

「Cor Unum et Anima Una、同心同意、One Heart One Soul」これが淳心会のスローガンです。ですから「同心同意」で、私たちの良き羊飼いであり主であるイエス・キリストに従い、神の愛を全世界に広めるといふこの素晴らしいミッション（使命）を、特に私たちの共同体を訪れ、その活動に交わってください。すべての人に、共に分かち合い、共に続けたいと思います。これからもどうぞ宜しくお願い致します。本当にありがとうございます。

J-CaRM 広島便り

岡山鳥取ユニティ活動

フィリピン移民の日 ジョン ボルドン 神父

私たちは9月30日の土曜日に、岡山鳥取ユニティ活動としてフィリピン移民の日を祝いました。ロルダン神父と私は京都教区から私たちの修道会のMSP（フィリピン宣教会）のメンバーを招待しました。

そして、さまざまな小教区から100人くらいのフィリピン人参加者がいました。

この祝賀行事の目的は、岡山鳥取地区のフィリピン人コミュニティを交流させることです。第二に、「フィリピン人として、私たちは宣教の代理人であり、キリストの愛、信仰、希望の証人でもある」という白浜司教様のメッセージを伝えることです。3つ目は、アウトリーチプログラム、パスポートの更新、日本での結婚、家族、仕事に関する相談など、フィリピン領事館からいただいたメッセージをすべてのフィリピン人たちに伝えることです。

私たちは午前10時30分からミサをささげ、その後一緒に昼食をとりました。フィリピンイーグルスク

ラブのご協力により、参加者全員にお弁当が用意され、この日の特別な祝いの象徴としてレチヨンという豚肉の料理を楽しみました。

私たちはこの日に、フィリピン人の最初の聖人である聖ロレンツ・ルイスの祝日も祝いました。ランディ神父は説教中に聖ロレンツ・ルイスの人生について語りました。岡山鳥取地区のフィリピン人コミュニティとしては初めての活動でしたが、これはとても楽しかったです。

これを機に、私たちは毎年、フィリピン人移民の日を祝うことにしました。



会場となった米子教会に集まったフィリピン人参加者



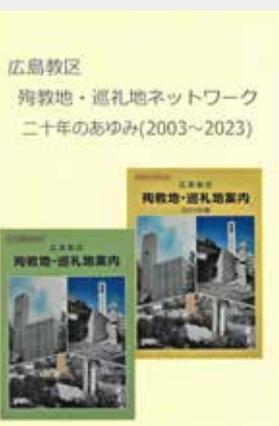
広島教区「殉巡ネット二十年のあゆみ」発行のお知らせ

広島教区の「殉教地・巡礼地ネットワーク」が20周年を迎えました。各地で行われる殉教祭や巡礼地の行事が教区全体で共有され、信仰の歴史を振り返り未来を見つめるために、ネットワークとしての活動が始まりました。

20年間の活動では、「年間行事予定表」の配布や活動報告、浦上四番崩れの150年にわたる流配に際しては、「流配開始から浦上帰還までの5年間を祈る期間」として流配レターを発行し、教区内の様々な行事や企画を信徒に伝えてきました。

20周年を迎えるにあたり、これまでの歩みと今後の展望を共有し、活動教会・グループそれぞれが20年の思い出を振り返りました。記念誌

には教区内の188福者に関する情報も掲載されています。また、潜伏キリシタンの250年に関する川村神父や、大塚司教、白浜司教の講演や説教も再録されています。この貴重な情報をぜひ手に取って、教区の歴史に触れてください。冊子はA4版で全98ページです。希望者は以下にご連絡ください。



広島教区 殉教地・巡礼地ネットワーク 二十年のあゆみ(2003~2023)

見本は殉教地・巡礼地を有する教会の関係者には配布済みです。尚、献金として1,500円の負担をお願いいたします。

連絡先／岡山教会（かごう）電話 086-222-4093

地区便り

広島地区



講話を行う大西勇史神父
(浜田・益田教会主任)

せて祈りました。
例年の如く、召命
のための祈りから
始まり、ロザリオ

の祈り、講話、神学
生の現状、そして司
教様司式のミサで終
りました。

大西神父様の講話
は、神様から愛され
ているという実感
を、人を通して体験
された事話され、

私たちは神様の愛に
喜びを感じるだけで
なく、提供する事も使
命であるという課題を
投げかけられました。

今後各自各々の場
所で召命のための祈り
を捧げ、次回開催予定
の岡山鳥取地区での集
まりにつなげていくた
らと思います。

*広島教区

召命合同祈りの集い

2023年10月20日、
「一〇〇周年、新たなスター
ト召命を祈る」というテーマ
のもと、鞆町教会にて「広島
教区召命合同祈りの集い」が
開催されました。総勢110
人を超える参加者が心を合わ



豊田 尚臣 神父
帰 天

広島教区司祭 ペトロ豊田尚臣神
父は、新年1月1日の11時のミサ
後に体調不良となり治療を受けま
したが容態が思わしくなく、1月
5日(金)午後1時、広島市民病
院で、心不全のため帰天されまし
た。享年86歳でした。

70 海峡からの風

下関労働教育センターだより

「出合いの文化」を作ってください、
という白浜司教さまの励ましの言葉を
2022年の50周年の記念ミサでいただ
いてから、ロクスひよりやまはその方向
へと船を漕いでいる。こどもとみんな食
堂はいつしか、子どもたちも大人も大好
きな場所となり、11月は子どもたち、ポ
ランティアの下関市大の学生たち、梅光
学院の高校生たち、そしていつも助けて
くださる方たち含め50人を超える大盛況
であった。毎回終了後に市大生たちと振
り返しを行う。「ここにはあたたかな優
しい空気が流れています」という言葉を
聞くと、この道を進んでいるのだな、と
確認できる。年度の始まりから、ある地
域へ出向いていくキッチンカーを彦島教
会の共同体の皆さんが準備から出向き、
片付けまでを担当してくださり、地域の
子どもたちが首を長くして待っていて
いる空間となっている。出向いていく教
会の姿を実現してくださる彦島教会の
方々に、支えてくれていているスタッフに心
から感謝である。

10月から子ども食堂が終わった後に、
自由参加の形でテゼの祈りを30分間行う
ことにした。3月に自分自身がテゼに
行つてから、この祈りの仕方を喜ぶ人た
ちがいることがよくわかったからであ
る。ある恩師が「祈りが活動を支えるの
だからそれが必要ね」と言ってくれた。
コロナ禍を機に、下関の信者さんたちの
霊操に同伴し、また定期的な祈りの時の

同伴をしている。このような霊的な時間
が確かに活動を支え、広げていってくれ
ているのを感じ、継続していこうと思
う。

同時に、コロナの規制が緩和されてか
ら、キャンプの中井は出張も増えてし
まった。しかし、自身が続けてきたこと
の実りを体験する時間でもある。日本に
滞在していたが、日本を出国せざるを得
なくなった朝鮮族の家族が韓国で家族で
生活することができるようというミッ
ションを抱えて韓国に行き、韓国の仲間
たちの支えでその道が開かれたのは、
朝鮮半島との平和と和解のためにやっ
てきたこと、そして難民移住者のために
今しているミッションが一つにつながっ
ていること、「これでいいんだよ」と神
がゴーサインを与えてくれていることを
感じる。アジアの仲間たちでインドネシ
アに集まり、今、軍事政権の弾圧に苦し
むミャンマーのために何ができるのかを
話し合う時間も、仲間たちの熱意に自分
自身が励まされる時間であった。下関の
教会のスリランカの青年たちとの関わ
りから、待降節にスリランカに行く機会
に恵まれた。6時間かけて行った聖地マ
ドゥーの聖母に、ミャンマーの平和のた
めの祈りを取り次いでいただいた。

2024年、私たちの胎に宿された神
の夢が実現していきますように。

(中井淳神父)

岡山鳥取地区

＊地区養成推進チーム
テーマ【信徒の奉仕職】
共に歩み 共に参加し
共に宣教しよう

昨年5月から全6回にわたって行われていた聖体授与の臨時奉仕者養成講座は、昨年11月18日に倉敷教会での開催をもって、無事に終了しました。

聖体授与の臨時の奉仕者候補23名をはじめ延べ385名の参加となりました。

どの講座でも伝えられていたことがあります。

※聖書を読むこと

※祈ること

わずかな時間でも、毎日。



倉敷教会

山口島根地区

＊山口サビエル記念聖堂の
献堂25周年



アルフレド神父
(山口教会主任)

2023年12月1日・2日、山口サビエル記念聖堂の献堂25周年を祝う「記念祭」を、市民との共催で行った。

1日は、山口での最初のクリスマススを記念する「クリスマス市セレモニー」を開催し、パイプオルガンの演奏をはじめ、聖歌隊、アーティストたちが歌を奉納した。今回はサビエルの生誕地スペインの若手歌手アマリア・ロメロさんも参加した。その後前庭では、サビエルと当時の領主大内義隆との出会いと絆を表現する光と音のスペクタクルショー「やまぐち光誕祭」が行われた。

2日は、聖堂前で「マルシェ」を開催し、国際交流団体や市民による食や手作り雑貨のお店が集まった。子どもたちには無料のお楽しみ券も配られ、聖堂内のパイプオルガンミニコンサート、25周年の特別展示にも多くの人が訪れた。山口教会で作成した「記念誌」も来場者に配布し、市民とともに25周年を祝った。



クリスマス市セレモニー参加のアーティスト

聖書通読写経キャンペーン

完了者紹介 (敬称略)

◆聖書通読を完了された方◆
No.019 森岡多恵子さん
翠町教会

聖書の通読、写経キャンペーンは継続して行っております。ぜひ個人で、グループで、家族で、取り組んでみてください。

エリザベト音楽大学
創立75周年

2023年11月23日、エリザベト音楽大学創立75周年記念行事が開催された。午前は世界平和記念聖堂にて記念ミサが、午後はエリザベト音楽大学セシリアホールにて記念式典と演奏会が行われた。記念ミサでは、主司式をアレキシオ白濱満司教、説教をイエズス会日本管区長の佐久間勤神父が務めてくださった。教区からは旧師の原田豊己神父、山



ともに記念ミサを捧げた司教、司祭、侍者

口道晴神父も共同司式に加わってくださいました。記念式典では、広島市長、東広島市長、駐日ベルギー王国大使館公使、上智学院理事長サリ・アガステイン神父より祝詞をいただき、続く記念演奏会では、専任教員がソリストを務め、広島交響楽団の演奏で協奏曲などを披露した。

(エリザベト音楽大学)



→2023年12月24日、世界平和記念聖堂で行われたクリスマス夜半ミサで聖歌隊の奉仕を行ったエリザベト音楽大学の学生の様子

青少年の活動

チューブ

参加者募集開始

今年度、58回目を数える、中国ブロックカトリック高校生大会（以下、チューブ）。

参加者募集開始しております！【×切…2月29日】



多文化カトリック教会
東広島教会主任
グエン・クアン・トゥアン神父

日本は世界で最も高齢化国です。また近年、高齢者人口増加に伴って、カトリック教会にも各小教区で高齢信者の割合が非常に高いという場合も多いと聞きます。

東広島教会では大行事の信徒全体のパーティ、クリスマス馬小屋組立・リース取り付けなどの準備、片付けをする人達の負担が大きくなったり参加される方が少なくなってきました。また、家族全体がカトリックの場合は問題ないのですが、とくに家族の中心の方だけがカトリックの場合などは家庭との折り合いをつけるのが大変そうです。これらの問題でカト



(119)

今回の大会テーマは、「PROTECT ALL LIFE」エコロジカルな未来のために。環境問題を考えるうえでカトリック教会が示す指針や、世界の自然環境の現状を聞き、「今の自分に出来ることはなにか？」を考えます。

レクや茶話会など、お楽しみも盛りだくさん！初参加のみも盛りだくさん！初参加のみも盛りだくさん！

多文化カトリック教会

リック東広島教会も今後高齢化していく教会としてどうしたらよいでしょうか？

その問題に解決するために、最近日本で働く外国人労働者数はベトナム人約50万人、フィリピン人約30万人、ブラジル人約20万人が増加しました。日本に外国人移住者が増えつつあった時期であり、教会にも外国籍信徒が多く訪ねるようになりました。それに対応して外国語ミサも定着し始めました。日本人の信者は同じ信仰を持つ仲間が増えることに喜ぶ一方で、異文化を受け入れ始めました。広島教区の中で小さな教会では日本人よりも外国人のミサ参加者が多くなり、外国人中心の教会になるところも出てきました。そのような状況の中で、広島教区のすべて教会が難民移住移動者を友として受け入れ、その思いに寄り

人も、最初から一緒に楽しめる集まりになるよう、残り2ヶ月、頑張ってください。

前回大会では、参加した中高生のうち、信者の子どもはわずか6名でした。

教会にほとんど子どもがいないことに驚きつつも、そんな

添うように呼びかけました。特に東広島教会では毎週、日曜日の午前に日本語ミサがありました。

午後第一週ベトナム語ミサ、第二週英語ミサ、第三週午前前に国際ミサを行っています。また、国際ミサの時に第二朗読は外国語で読まれ、共同祈願はそれぞれ日本語、ポルトガル語、英語、ベトナム語、タガログ語、韓国語を唱えます。そして、ミサの中で入祭の歌、拝領の歌、閉祭の歌も外国語聖歌で歌っているの、教会の雰囲気、活動内容も、明るく活気に溢れている様子が伝わってきます。

そして、東広島教会で異文化理解を深める為の事業を行う事で食文化の推進に寄与することを目的として毎月第二日曜日ミサ後にさまざまな外国料理をコロナ禍前に行って行っていました。それはベトナム料理は、やさしい味付けで、野菜をたくさん使ったヘルシーな料理として日本人でも人気があります。特にベトナム料理のおいしさ

な今だからこそ、同じカトリックの洗礼を受けた同世代の友人と出合える場合は、彼らにとつて貴重な時間だと感じます。

目指せ、参加者50名！

皆さんの近くにも、対象学年の方がいらつしやいましたら、ぜひ、お声がけいただけると嬉しいですよ！

の秘密は「五味・五彩・二香」にあります。逆にブラジル人の料理に牛肉はなくてはならない存在です。そして鶏肉や豚肉、ソーセージ、サラミなども料理にたくさん使われています。フィリピン料理は暑い国の料理の特徴として、食べ物も飲み物も甘い味付けになりやすいですが基本的にはどの料理も甘めの仕上がりになっています。さらに、炒め物や揚げ物系も多く、油を使った料理が好まれています。それによって、教会の平和やもつと幸せになれる環境を作ってきました。多文化活動の

参加者募集

2024.3.25 (月) 15:00～
27 (水) 12:00

会場 福山暁の星学院 研修センター

対象 中3～高3
参加費 4,000円

お申し込み

2024.3.25 (月) - 27 (水)

申込期間 2024.02.29

福山暁の星学院 研修センター
〒747-0292 広島県福山市福山町1-1-1

チューブ 2024 参加者募集開始

PROTECT ALL LIFE



神の母聖マリアのミサ後、岡山教会でも結構な揺れ、その後、連日伝えられる能登地震の被害状況。厳しい年の始まり、連帯を呼びかけます。(にん)